

糸島1市2町合併議案が可決

～平成22年1月1日糸島市が誕生～

さ
さ
ぐ
り
純
夫
通
信



Vol. 21

平成21年1月14日発行

福岡県前原市前原中央

1丁目5-28-905

TEL:092-322-9150



合併議案可決時の議会の模様
(2列目真中がささぐり純夫)



昨年12月19日(金)12月議会最終日において、糸島1市2町合併関連議案が賛成15、反対2の賛成多数で可決しました。

同日、志摩町、二丈町も同議案が2町とも賛成8、反対4で可決され、いよいよ平成22年1月1日に人口10万人の糸島市が誕生することになりました。

今後九州大学を軸とした学術研究都市の構築を含め、糸島市の誕生により、市民の皆様にとって更に暮らしやすいまちづくりを目指し頑張つて参ります。

本議会において、合併関連議案における賛成討論を行いました。

以下にその発言内容をご紹介します。



<「糸島1市2町合併関連議案」賛成討論より>



議案第88号「前原市、糸島郡二丈町及び同郡志摩町の配置分合について」賛成討論をいたします。

平成18年7月に「糸島1市2町の首長による合併を目指すことの申し合わせ」、平成19年12月議会で「糸島1市2町合併協議会設置」が決定、14回にわたる合併協議会の開催、合併協議会幹事会での協議を重ねた結果、合併議案が提出されました。ご尽力された、松本市長並びに市執行部の皆様、及び合併協議会委員の皆様、その中核としてご奮闘いただいた福岡部長をはじめとする「糸島1市2町合併協議会事務局」の皆様、さらに合併の必要性に深い理解を示していただいた市民の皆様、衷心より敬意と感謝を申し上げます。

「公明党マニフェスト2007」で「なくします！税金のムダづかい！」の4番目に「地方分権の推進」を掲げております。

「市町村合併を強力に進め、1000自治体をめざします。」と明確に謳っております。

合併協定項目の決定事項及び新市の財政については、「糸島1市2町 新市基本計画 ダイジェスト版」の全戸配布で周知、20回にわたる合併住民説明会で、市民の皆様の疑問や不安に対する説明責任は果たしたと判断いたします。

合併に対する期待を2点に絞り述べます。

①福岡県の他市の皆さんから「糸島は未来に夢が持てる地域。九州一の大都市福岡市に隣接し、知の拠点である九州大学を活かしたまちづくりが期待できる。計り知れない可能性を秘めている。非常に羨ましい。」とお聞きします。

私は「ありがとうございます。将来発展する可能性を秘めた糸島です。しかし、その千歳一遇のチャンスを活かせるかどうかは、住民の我々にかかっています。糸島地域を学術研究都市にしたいと思っても、積極的に働きかけないと、何一つ前に進みません。」と答えています。

平成18年6月23日、「九州大学と前原市、志摩町及び二丈町との協力協定書」が九州大学の梶山前総長と松本市長、末崎町長、筒井町長との間で締結されました。ちなみに、九州大学と前原市との連携事業は平成20年9月末現在で63事業を数えています。

しかし、残念ながら、一部を除き1市2町それぞれが九州大学と事業連携していることは、否(いな)めません。1市2町合併が成就すれば、糸島市として窓口が一本化され、事業の規模、量ともに飛躍的に伸びることは、疑いの余地はないと確信いたします。

②次に、道州制を視野に入れた地方分権の流れは加速しています。その現われが、県から市町村への権限委譲です。

地方自治体が地方分権に耐えられる基礎自治体であるかどうか。「自己決定、自己責任、言い換えれば各自自治体が決定し、その責任を自治体が負う」。権限委譲に伴い「深い専門知識の習得、高度な行政事務判断が求められる」ことは必定であります。

地域住民は頼りがいのある、専門性の高い自治体職員を必要とします。そのためにも、糸島1市2町が合併し、専門性を高めるべきであります。そうすることが、住民の利益の確保、福祉の向上に寄与すると信じております。

糸島の住民の皆様から「合併は良かったね！良いほうが多かったね！と言われれば成功です」「欠点をカバーして、長所を伸ばせばいいんです」とのお声をいただきました。

後世の人々から、糸島1市2町合併の選択は正しかったと。近い将来、賞賛されることを固く信じて賛成討論いたします。

「要約筆記員奉仕員の育成」や 「赤ちゃんの駅」設置などを要望

平成20年12月 定例議会報告

12月定例議会において、一般質問・賛成討論を行いました。
本議会で私が発言した内容を紹介します。
今回は紙面の都合により主な内容のみ掲載します。
それ以外の項目及び詳細については私のホームページに掲載しています。
(下段にホームページアドレスを表示しています)

「定額給付金」への 期待と運用方法



(問い)
金融危機による市民生活への影響と「定額給付金」の期待について、市長はどのような認識を持っておられるか。

(答え)
「景気後退下での住民の不安に対処するため、住民への生活支援を行うとともに、住民に広く給付することにより、地域経済対策に資する」ことを目的に実施される施策である。定額給付金が市民の生活支援になるとともに前原市での新たな消費に向けられ、景気の向上に繋がっていくことを期待している。(市長答弁)

(問い)
「定額給付金」については、プロジェクトチームなどを早急に立ち上げ、準備に万全を尽くすべきと考える。高額所得者問題も含め市長の認識と対応を伺う。

(答え)
現在、財政課と経営企画課の職員とで情報収集に当たらせ、対応が遅れることがないよう事務を進めている。
今後は、必要に合わせて職員体制を固め「安全でスピーディーに」そして「間違いがないように」、給付事務に当たらせていく予定である。なお、高額所得者に対する所得制限については、福岡県市長会で統一し、制限を設けないこととしている。(市長答弁)

(問い)
生活支援と経済対策の主旨から、地元商店街などに経済効果が波及する対策がとれないか。

(答え)
広報紙とホームページで定額給付金についての説明に併せて、市内での消費について市民のご理解とご協力を求めている。また給付金の辞退を考えている方がおられれば、個別に「前原市ふるさと応援寄附」をご案内するなどの対応を採りたい。(部長答弁)

「要約筆記」の啓発と 派遣事業の実施を



(問い)
先般前原市内で行われた要約筆記奉仕員養成講座を受講され、新たに地元サークルとして20名以上の要約筆記奉仕員が登録されたとうかがっている。また要約筆記をご存知でない難聴者や中途失聴者の方に、要約筆記利用の啓発活動も必要ではないか。

また、前原市は手話通訳派遣事業は既にあるが、要約筆記派遣事業はない。

要約筆記派遣事業についても踏み出すべきではないか、受け入れ側の体制も考慮すべきではないか。

(答え)
県の要約筆記奉仕員養成講座が市内で開催され、この修了生の中から要約筆記の会がつくられ、自主的な活動が開始されている。
これらの活動は要約筆記の普及にもつながり、本市にとっても、大変大きな力添えになるものと考えている。
本市としては、この要約筆記の会も立ち上がったばかりなので、まずは会員の技術向上や要約筆記の啓発・普及も含めて、講演会等の市のイベントの中で要約筆記派遣を実施していきたいと考えている。その後、その実施状況や市民要望などを踏まえて、個人への派遣事業については検討していきたい。(市長答弁)

「ふるさと応援寄附」8ヶ月で 190件 約1,000万円に

寄附をいただいた方、本当にありがとうございました。前原市の発展のため大切に活用されます。

この制度は市内・市外在住に関係なく「前原を応援したい」という気持ち一つで寄附ができます。ぜひ皆様からの応援をお願いいたします。



「ふるさと応援寄附」
をされた方に贈られるエコバッグ



「赤ちゃんの駅」とは？

市民の方から「赤ちゃんを連れて外出するときは、3時間おきに授乳やおむつ替えなどが必要となり、その場所を探すだけでも大変」との声をお聞きました。

この問題に対し北九州市では、乳幼児を抱える保護者のみなさまの子育てを支援する取り組みの一環として、外出中に授乳やオムツ替えなどで立ち寄ることができるような施設を「赤ちゃんの駅」として登録しています。

今回私が取材した埼玉県本庄市では、市・県公共施設やJRの駅、他にも民間の施設として私立保育園やスーパーのお店などに計88カ所設置されていました。

設置場所には ①授乳できます ②ミルクのお湯あります ③おむつ交換できます と書かれたパネルを掲示し、誰でも気軽に利用できるようになっています。

ぜひ前原市でも早期に事業展開してほしいものです。



「赤ちゃんの駅」のパネル（埼玉県本庄市）



「赤ちゃんの駅」を
公共施設に設置を



(問い)

公共施設の一部を活用し、「赤ちゃんの駅」設置ができないか。

(答え)

まず公共施設をはじめとして、各種団体にもお願いし、設置に向け協議を進めていきたい。また、ポスター等についても、提供施設の表示やPRの

方法等もあるので、併せて検討する。(課長答弁)

「赤ちゃんの駅」の
配布優先駐車場



(問い)

母子健康手帳交付時に「マタニティキーホルダー」等の配付ができないか。

(答え)

本年6月からは、母子健康手帳交付時全員に、マークが大小5枚セットになっている「マタニティマー

ク」を配付している。さらに、公共交通機関を利用することが多い対象者のうち希望する方に対し、「マタニティキーホルダー」を配付する方向で検討する。(課長答弁)

(問い)

公共施設の駐車場に妊産婦(マタニティマーク)や内部障がい者(ハート・プラスマーク)、けがをしている人を表すマークを表示し、優先駐車車を可能とする取り組みができないか。

(答え)

公共施設の駐車場へのマタニティマークやハート・プラスマークの表示について、新たにマークの表示が技術的・費用的に可能な市役所の屋根付きの障がい者用駐車場については、表示する方向で進めていきたい。それ以外の屋根がない障がい者用駐車場については、路面や屋外への表示が技術的・費用的に困難なことから、障がい者用駐車場に妊産婦及び内部障がい者の方も優先駐車できることを、市広報、市ホームページなどを活用して、周知していきたい。また、母子健康手帳交付時に希望者に対して、車両等に表示することが出来るマタニティマークを配布する方向で進めていきたい。(課長答弁)



市立図書館内に
ボランティア支援を



(問い)

図書館を利用される幼児とお母さんのため、館内でボランティアの支援をいただけないか。

(答え)

図書館現場では残念ながら、一般利用者から「子どもの声がうるさい」という声と、こどもの保護者からは「いちいち注意しないで欲しい」という両方の声があり、図書館職員はその狭間で大変苦慮しているのが実態である。この対策として、本年9月には、同敷地内にある子育て支援センター「すくすく」と連携し、同センター内の一角に“ねころびコーナー”を設置し、「このコーナーでは、お子様の声を周囲に気にすることなく、絵本を読むことができます。」という案内をすると共に、親御さんも図書館で借りてきた本をここで読めるようにしている。その効

～皆様からの声をお待ちしています～



今回紙面に掲載できなかった項目に関しては、私のホームページに詳しく掲載しています。

アドレスは <http://www.sasagurisumio.com>

また、皆様からのご要望、ご相談も随時受け付けております。

連絡先は092-322-9150 (FAX兼) E-mail: sasagurisumio@yahoo.co.jp

いつでも、お気軽にご連絡ください。

果あって、最近では、クレームも減少してきた。今後も利用者のマナーアップに努めたい。
また、子ども優先時間帯「キッズタイム」の設置検討など、問題解消に向けて取り組んでいきたい。(課長答弁)

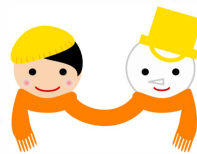
新聞掲載記事のご紹介

昨年1年間で「8回」の新聞掲載
～ささぐり純夫の実績が広く紹介されました～



おかげさまで、昨年は新聞記事として8回掲載をしていただきました。
これらは全て皆様からいただいたご相談・ご要望が実を結んだ賜物です。
今後も「調査なくして発言なし」の政治信条のもと、前原市と市民の皆様の幸福のため全力で走り続けてまいります。
今回は紙面の都合により直近の3項目を掲載します。

平成20年10月29日(水)
公明新聞に掲載



難聴者などを支援

要約 奉仕員養成講座を開催 福岡・前原市
福岡県前原市では今年3月31日まで、病气や事故、高齢による難聴者や中途失聴者に対し、社会や会話の内容を文字で伝える「要約筆記」の奉仕員養成講座が実施されている。
福岡県前原市では今年3月31日まで、病气や事故、高齢による難聴者や中途失聴者に対し、社会や会話の内容を文字で伝える「要約筆記」の奉仕員養成講座が実施されている。



要約筆記奉仕員養成講座の反響などについて聞く 笹栗純夫議員

市健康福祉センター「あごら」を訪れ、講座の様子を観察するとともに、参加者の反響などについて話を聞いた。難聴者や中途失聴者の中には手話が使えない人が多く、意思の疎通が十分に図れないことが社会参加の障壁になっている。このため、コミュニケーション手段として要約筆記によるサポートが重要視されている。
この日の講座では、オーバーヘッドプロジェクター(OHP)を使用し、書いた文字を映し出す「手書き要約筆記」の実習が行われ、読みやすく、理解しやすい文章の書き方など



土曜日も開いてます 障害児預かる「あごらクラブ」

福岡・前原市



「あごらクラブ」を視察する黒田(正面右)、笹栗(同左)の両議員

6時、土曜日は午前8時半から午後6時まで。都合によって時間延長もあるという。現在14人が登録しており、土曜日には平均5、6人が利用している。

福岡県前原市で4月から開始された障害児放課後対策事業「あごらクラブ」の土曜日開所が喜ばれている。身体や知的障害のある児童や生徒を預かる施設で、土曜日開所については、市議会公明党の黒田公二議員がかねてから要望していた。

この日、黒田議員らは、施設内でフランクやトランポリン、折り紙などで楽しむ子どもたちの様子を見て回った。先ごろ、黒田議員と笹栗純夫議員が、現地の視察を行った。同施設の開所時間は平日が午後2時～同だ。

平成20年9月17日(水)
公明新聞に掲載



平成20年10月10日(金)
公明新聞に掲載

観光地に多目的トイレ設置

福岡・前原市

前原市の「白糸の滝ふれあいの里」にこのほど、既設のトイレに



併設して多目的トイレが設置され、喜ばれている【写真】。市議会公明党の笹栗純夫議員の訴えが実ったもの。同地は、年間約34万人が訪れる有名な観光スポット。高齢者や乳児連れの観光客も多いが、これまでは十分な対応ができずにいた。

多目的トイレには、オストメイト(人工肛